

平成30年度 地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公表者：国立大学法人弘前大学長

寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
秋田県 大館市	33,000,000円	平成30年4月10日	<p>寄附講座 (大館・北秋田地域医療推進学講座)</p> <p>地域医療を担う優秀な若手医師育成のための卒前・卒後医学教育の在り方に関する研究と、地域医療の現場で国際水準の質の高い医療を提供できる医師養成のための生涯教育の実践を通じて、地域医療、特に大館・北秋田地域における医療連携に関する研究を行うとともに、その研究成果の普及活動を行い、地域医療の充実と住民の健康福祉の向上に寄与することを目的とする。さらに、がんを中心とする同地域において重要な疾患の予防、診断、治療に関する研究を通じて、地域住民の社会福祉の向上に寄与することを目的とする。</p>	<p>弘前大学大学院医学研究科では、多くの臨床医学系講座、総合医学教育学講座、社会医学講座がそれぞれの担当の中で地域医療に関する講義を行うとともに、学外の地域医療機関の協力の下で診療参加型臨床研修を実施し、地域医療に関する卒前臨床医学教育の充実に努めている。</p> <p>一方、医学教育の在り方に関する検討の中で、地域医療を担う優秀な医師の養成にあたっては、卒前医学教育、卒後臨床研修、大学院教育、医師生涯教育を一貫して見直し、改善を図っていくことの重要性が指摘されている。</p> <p>北秋田地域のの中核病院である大館市立総合病院は、消化器外科学講座をはじめとする臨床医学系講座との密接な協力関係の中で卒前・卒後医学教育の場を提供し、一方、医学研究科は大学院教育や生涯教育の場の提供、さらに、がん等の地域における重要な疾患に対する診療支援等を行うことで、相補的に北秋田地域の医療の充実と社会福祉に貢献してきた。</p> <p>本寄附講座の設置は、多くの臨床医学系講座、総合医学教育学講座、社会医学講座との連携の下、地域医療に対応できる診療能力を有する医師育成のための卒前・卒後医学教育の在り方に関する研究、及びがんを中心とする地域において重要な疾患の予防、診断、治療に関する研究をさらに推進するものであり、また、大学院教育も含めた医師の生涯教育を実践することで、地域医療、特に北秋田地域における地域医療の一層の充実を図る必要があることから、寄附を受け入れたものである。</p>	<p>寄附講座設置日：H25.10.1 設置期間：H25.10.1～R5.3.31</p> <p>平成25年度 20,000,000円 平成26年度 30,000,000円 平成27年度 30,000,000円 平成28年度 30,000,000円 平成29年度 30,000,000円 平成30年度 33,000,000円 平成31年度 33,000,000円 (予定) 令和2年度 33,000,000円 (予定) 令和3年度 33,000,000円 (予定) 令和4年度 33,000,000円 (予定)</p>

平成30年度 地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公表者：国立大学法人弘前大学長

寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
三沢市	12,000,000円	平成30年5月25日	<p>寄附講座 (地域総合診療医学推進学講座)</p> <p>地域循環型総合診療医養成システムに関する研究を通じて、地域医療の充実に寄与すること、更に、高齢化時代における地域医療に関する各種研究を通じて、総合診療医学の発展に寄与することを目的とする。</p>	<p>弘前大学大学院医学研究科では、多くの臨床医学系講座、総合医学教育学講座、社会医学講座がそれぞれの担当の中で地域医療に関する講義を行うとともに、学外地域医療機関の協力の下で診療参加型臨床研修を実施し、地域医療に関する卒前臨床医学教育の充実に努めている。一方、医学教育の在り方に関する検討の中で、地域医療を担う優秀な医師の養成にあたっては、卒前医学教育、卒後臨床研修、大学院教育、医師生涯教育を一貫して見直し、改善を図っていくことの重要性が指摘されている。</p> <p>わが国では、世界に類を見ない高齢化が急速に進行しており、65歳以上の高齢者が3,000万人を突破した。今後、更に高齢化は進んでいくものと予想され、高齢化が進行すれば、従来の領域ごとに専門分化した医学だけでは対応しきれない状況となってくる。このような状況に効率的に対応していくためには「総合診療専門医」の育成が急務となってきている。このような事情を背景として、国は2017年度から新たな専門医制度を開始しようとしており、その制度において新たに「総合診療専門医」を創設することを決定した。今後、相当数の総合診療専門医の誕生に向け、わが国の医師養成体制は大きく変貌する可能性がある。</p> <p>青森県は、従来から人口あたりの高齢者の割合が高く、また広大な面積に比して医師数が少ないことが医療上は負の素因と考えられてきた。しかし、総合診療専門医を養成する観点から見ればこれはむしろ利点であり、青森県は総合診療専門医の養成やその分野の研究を推進する上で絶好の土壌を備えていると考えられる。</p> <p>本寄附講座の設置は、寄附講座を中心として地域を包含した総合診療医学の体系的な研究を行うことに加え、青森県内の地域と密接に連携し、地域の医療機関を主舞台とした循環型の総合診療専門医養成システムを確立することで地域に対する大きな医療貢献を図るものであることから、寄附を受け入れたものである。</p>	<p>寄附講座設置日：H26.4.1 設置期間：H26.4.1～H31.3.31</p> <p>平成26年度 12,000,000円 平成27年度 12,000,000円 平成28年度 12,000,000円 平成29年度 12,000,000円 平成30年度 12,000,000円</p>

平成30年度 地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公表者：国立大学法人弘前大学長

寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
弘前市	12,000,000円	平成30年6月29日	平成30年度先端医療研究開発 プロフェッショナル人材育成	地方における教育・研究環境の高度化や先端的医療の提供体制の構築・充実、若手医療人材の地域への定着弘前市の地域課題となっている。これらの課題解決に向け、本学においては、大学院医学研究科及び医学部の教育・研究環境の向上を図ることにより、医学研究者・医師の科学と技術に対する関心・知識を高め、先端医療に携わる人材を育成することが求められていることから、寄附を受け入れたものである。	

平成30年度 地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公表者：国立大学法人弘前大学長

寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
弘前市	30,000,000円	平成30年8月3日	<p>寄附講座 (地域救急医療学講座)</p> <p>弘前市を中心に、地域の救急医療全般にわたる研究を行うことを目的とする。併せて、地域の救急医療に関わる人材の育成を行う。</p> <p>また、救急医療に関わる研究成果の公表や各種講演会の企画・開催等を通じて、地域住民へ救急医療全般にわたる知識を啓発・普及するとともに、これに関わる具体的な方法や行動を指導、助言する。さらに、これに関わる社会的基盤の整備と地域システムの構築を目指すことを目的とする。</p>	<p>弘前市を中心とする津軽地域はもとより、青森県全体にわたって慢性的な医師不足による救急医療の整備不足が存在する。このような医師不足や救急医療の専門家不足の解消にはまだ相当の時間を要すると考えられる。今、本学に求められているのは、救急医療に関わる人材の育成と地域の救急医療の在り方に関する実践的研究であり、これを担うための講座設置が必要であることから、寄附を受け入れたものである。</p>	<p>寄附講座設置日：H28.4.1 設置期間：H28.4.1～R2.3.31</p> <p>平成28年度 30,000,000円 平成29年度 30,000,000円 平成30年度 30,000,000円 令和元年度 30,000,000円(予定)</p>

平成30年度 地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公表者：国立大学法人弘前大学長

寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
青森県	70,000,000円	平成30年12月14日	<p>寄附講座 (総合地域医療推進学講座)</p> <p>超高齢化や新専門医制度を踏まえ、本学を起点とし青森県内の大小医療機関を循環するオリジナルの地域循環型医師育成支援システムに関する総合的な研究を通じて地域医療の充実に寄与することを目的とするほか、周産期医療従事者及び障害児者医療従事者の育成及び在り方に関する研究を通じて地域医療の充実に寄与することを目的とする。</p>	<p>弘前大学大学院医学研究科では、多くの臨床系講座、総合診療医学講座、社会医学講座がそれぞれの担当の中で地域医療に関する講義を行うとともに、学外地域医療機関の協力の下で診療参加型臨床研修を実施し、地域医療に関する卒前臨床医学教育の充実に努めている。</p> <p>わが国では、世界に類を見ない高齢化が急速に進行しており、65歳以上の高齢者が3,000万人を突破した。まさに超高齢時代を迎えたといっても過言ではなく、今後更に高齢化は進んでいくものと予想される。高齢化が進行すれば従来の領域ごとに専門分化した医学だけでは対応しきれない状況となってくることから、総合診療専門医の育成が急務となってきた。このような事情を背景として、国は2017年度から新たな専門医制度を開始しようとしており、その制度において新たに「総合診療専門医」を創設することを決定した。今後、相当数の総合診療専門医の誕生に向け、わが国の医師養成体制は大きく変貌する可能性がある。青森県における地域医療充実のためには旧来の内科医、外科医等の育成に加え、新たな地域医療の担い手である総合診療医の育成が欠かせない。そのため、本寄附講座を中心として、若手医師がキャリア向上を図ることができる地域循環型医師育成システムを構築し、地域医療の恒常的な充実を図っていく必要がある。</p> <p>また、地域医療充実にあっては、周産期医療従事者及び障害児者医療従事者の確保も喫緊の課題であるが、この状況を解消するにはまだ相当の時間を要すると思われる。本学に求められているのは、これらの人材育成と、地域の周産期医療及び障害児者医療の在り方に関する実践的研究である。</p> <p>以上のことから、これらを担うための講座設置が必要であるため、寄附を受け入れたものである。</p>	<p>寄附講座設置日：H28.5.1 設置期間：H28.5.1～R3.3.31</p> <p>平成28年度 60,000,000円 平成29年度 60,000,000円 平成30年度 70,000,000円 令和元年度 70,000,000円(予定) 令和2年度 70,000,000円(予定)</p>

平成30年度 地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公表者：国立大学法人弘前大学長

寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
弘前市	5,000,000円	平成30年6月15日	<p>学都ひろさき未来基金</p> <p>学生を地域課題に対してもグローバルな視点で対応できる人材として育成するために、弘前市や企業等の協力を得て「学都ひろさき未来基金」を設立する。その資金によって「弘前大学グローバル人材育成事業」を展開し、学生の海外研修や海外留学等を促進する。</p>	<p>弘前大学は地域とともに歩み世界に向けて情報発信をすることを基本方針として、地域課題の解決に立ち向かい地域活性化を担う人材の養成に努めることとしているが、今日世界的な競争と共生が進む現代社会においては、地球規模（グローバル）の視野を持ちながら地域（ローカル）の課題に主体的に取り組み、これを解決できる人材すなわちグローバル人材を育成することに継続的に取り組むことが必要となっている。</p> <p>このグローバル人材育成事業の継続的实施を実現させるために、寄附を受け入れたものである。</p>	

平成30年度 地方公共団体からの寄附について

以下のとおり、寄附を受領しましたので公表いたします。

公表者：国立大学法人弘前大学長

寄附者	寄附の金額	受領年月日	内 容	寄附に至った経緯	備 考
深浦町	500,000円	平成31年2月8日	<p>深浦エコサテライトキャンパス事業実施への助成</p> <p>本学の教員及び学生が、深浦町の地域課題等の解決に向けて取り組む「滞在型学習支援プログラム」や公開講座等を実施することを目的に、深浦町役場内に施設を有しない、バーチャル型のサテライトキャンパスを設置している。この資金により、教員及び学生が地域住民と交流しながら学ぶこと及び、本学の知の資源を地域に提供し、深浦町の活性化に寄与する。</p>	<p>本学は、平成27年5月15日に相互の密接な連携と協力により、地域の課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的として、包括連携協定を締結した。</p> <p>この包括連携協定に基づき、平成28年5月20日に滞在型学習、公開講座や講演会等の実施や課外活動団体等による地域交流活動及び、大学の各種資料の配布などによる広報活動などを実施することを目的として「弘前大学深浦エコサテライトキャンパス」を設置する覚書を締結した。</p> <p>よって、当キャンパスの設置目的の実施を遂行するため、寄附を受け入れたものである。</p>	